第2章　南富良野町の地域福祉の課題

1　地域の現状

（1）南富良野町の概要

南富良野町は、北海道のほぼ中央に位置し、空知川に沿って、北落合、落合、幾寅、東鹿越、金山、下金山という６つの地区から形成され、北は富良野市、東は新得町、南は占冠村、西は夕張市に隣接しています。

町域は、東西 43.3ｋｍ、南北 45.9ｋｍ、総面積 665.52ｋm^2 と広大で、そのほとんどが自然のままの豊かな森林となっています。

山間の地形のため、昼夜の寒暖の差が大きく、夏冬の季節温度の差が 50℃を上回ることもあり、また、冬期間の積雪も多く北海道の中でも大変厳しい気象条件にあります。

交通網は、東西に国道 38 号、南北に国道 237 号の主要幹線があり、平成 23 年秋を予定に高速道路が占冠村から札幌市まで開通されます。ＪＲは根室本線が幾寅駅から富良野市へ 45 分、旭川市へ２時間、札幌市へ３時間で結んでいます。

農業を基幹産業として発展を遂げてきましたが、年々農業就業者数は減少傾向にあり、過疎化が進んでいます。

南富良野町の位置

（2）人口の状況

① 人口

南富良野町では年々人口が減少するとともに、高齢者の占める割合が増加しています。

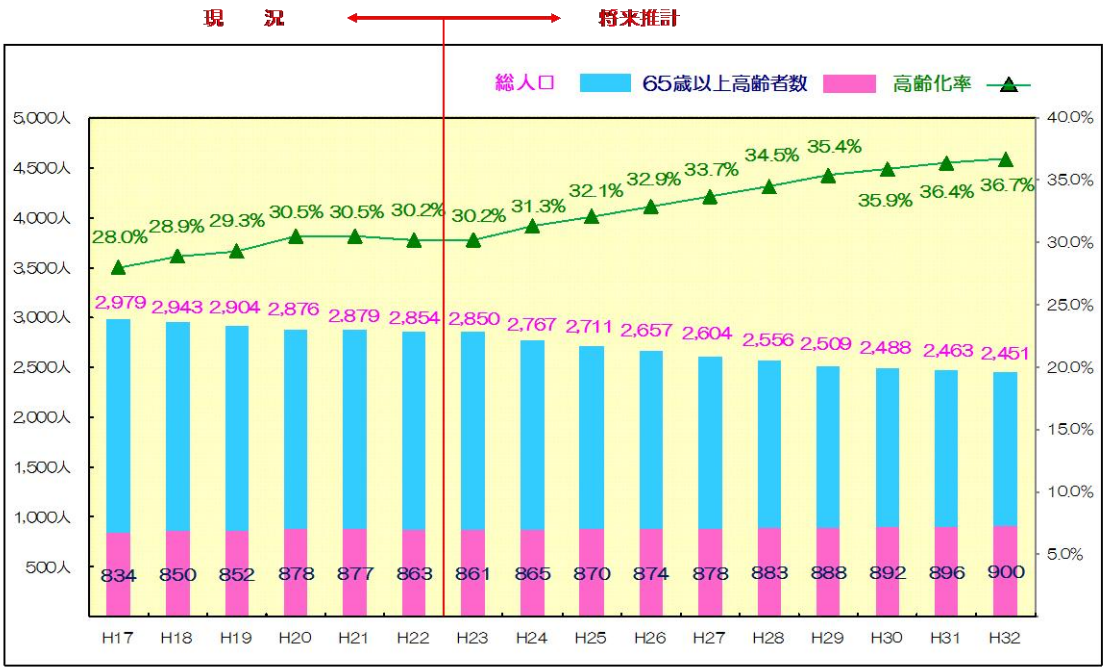
平成２３年３月末現在、総人口 2,8５０人の中で 65 歳以上の高齢者数は８６１人となり、高齢化率は 30.2％となっています。南富良野町の高齢化率は、全道平均 24.2%を大きく上回る状況です。

高齢化の進行とは対照的に、15 歳未満の年少人口は減少を続け、平成 17 年現在 13.1%まで低下してきています。

今後もこのような人口の減少と高齢化の進行が同時に進むことが予想され、10 年後の平成32年時点には、総人口は約2,451 人程度に減少し、高齢化率は37.0%に達するものと予測されます。

福祉施策の推進にあたっては、このような高齢化の進展をふまえ、誰もが自立して、住み慣れた地域で暮らし続けることのできる「福祉のまち南富良野」を築いて行く取り組みが重要となっています。

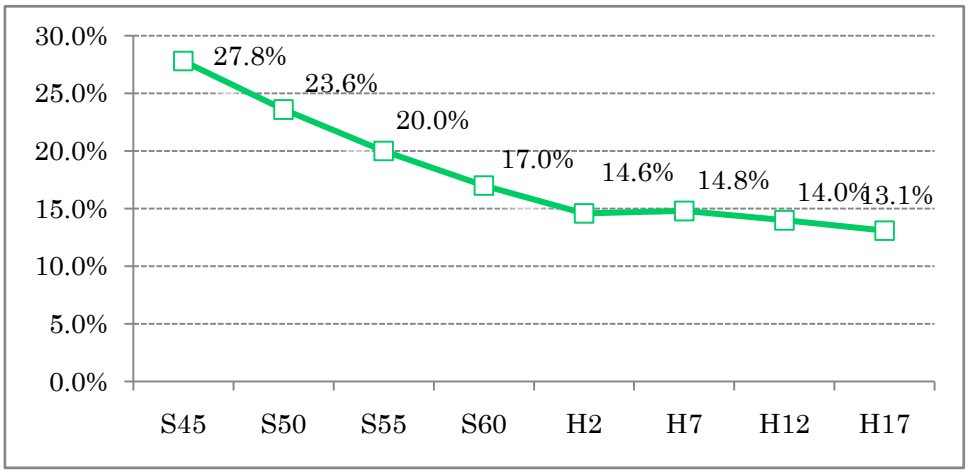
【南富良野町の人口の推移と将来推計】



※各年３月 31 日末日現在

資料：住民基本台帳

【人口に占める年少人口(15 歳未満)の比率】



資料：国勢調査

② 地区別人口の推移

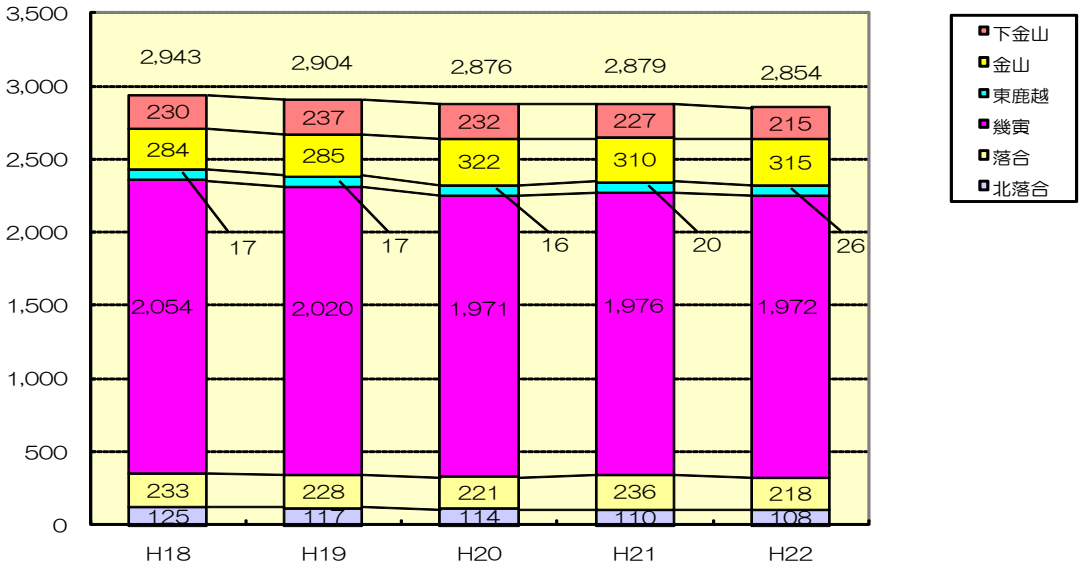
南富良野町は６つの地区から構成されていますが、人口規模、高齢化率は地区によって大きく異なっています。

総人口 2,854 人中、幾寅地区におよそ 70%の 1,972 人が居住し、残りの 30%およそ 1,000 人が他の５つの地区に暮らしています。

平成 18 年から平成 22 年までの動向を見ると、幾寅地区の減少率は 3.9%、他の地区では、減少率が 0.8%となっています。

平成 20 年度の特別養護老人ホームふくしあの開設に伴い、人口は増加しています。

【地区別人口の推移】



※各年３月 31 日末日現在
平成 22 年度は平成 23 年２月末現在
資料：住民基本台帳

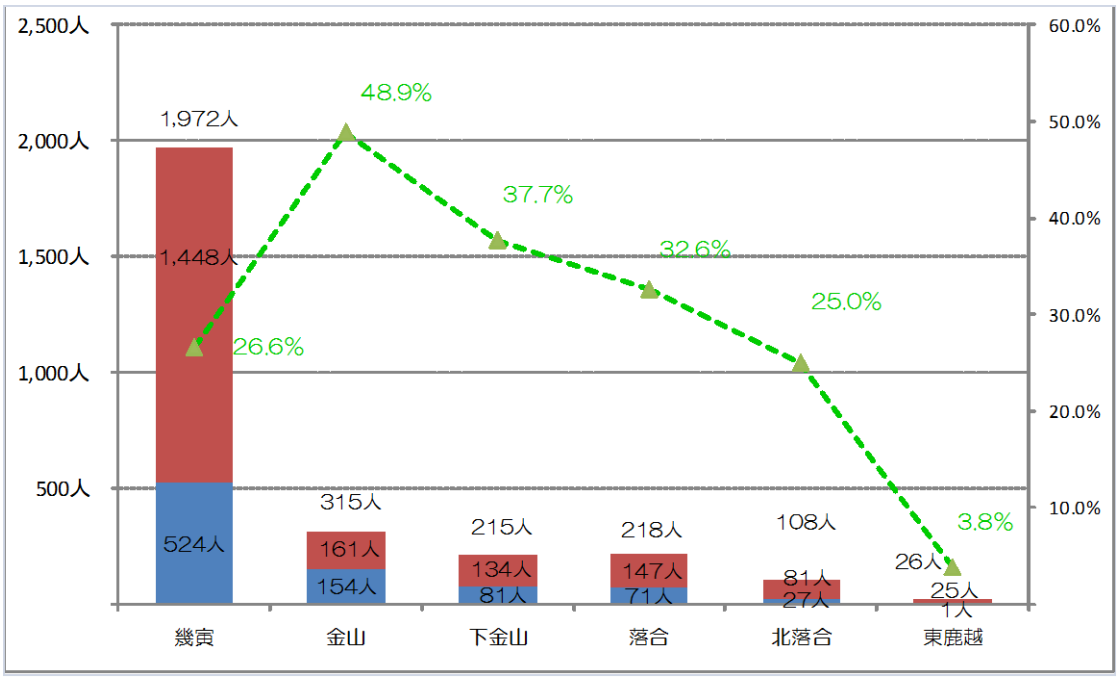
③ 地区別高齢者数

高齢化の状況は金山、下金山地区が最も深刻で、高齢化率はそれぞれ 48.9%、37.7%となっています。

金山地区は、高齢化率が高いことに加え人口の減少も大きく、地域の振興に取り組むことが重要な課題となっています。

また、落合地区の高齢化率は 32.6%と町平均を上回るのに対し、北落合、東鹿越地区では 25.0%、3.8%と低くなっており、各地域の特性に応じた福祉サービスを築いていく必要があります。

【地区別高齢者数の推移】



※平成 23 年 2 月 28 日現在
資料：住民基本台帳

2 生活・福祉課題

（1）地区座談会等の開催状況

H２３.1.12	○「下金山地区座談会」 下金山地区住民　６人参加
1.１３	○「金山地区座談会」 金山地区住民　５人参加
1.１７	○「幾寅朝日町地区座談会」（サロン開催会場） 地区住民　１７人参加

Ｈ２３.１.１８	○「北落合区座談会」 地区住民　　４人参加
１.１８	○「落合地区座談会」 地区住民　　１０人参加
１.１９	○「幾寅地区座談会」 千木町　　４人参加　　岐　阜　　２人参加 仲　町　　２人参加　　大乗会　　５人参加

H２３.１.２１	○「幾寅東町地区座談会」（サロン開催会場） 地区住民　　２０人参加
３．９	○「小地域ネットワーク活動推進会議」 開催場所　保健福祉センターみなくる 参加者　　５０人参加 ふれあい・いきいきサロン活動報告状況 コーディネーター 旭川大学保健福祉学部コミニュティ福祉学科 教授　白戸　一秀 氏

【地区座談会等における意見の概要】

「生活上の不安・要望」
・高齢者等が買い物、文化活動などを行うための移動手段が少ない
・高齢者の多くが、年々除雪に対して不安を抱えている（排雪実施の充実化）
・ひとり暮らし高齢者等を対象に、近隣の住民や民生委員につながるようなシステム整備の構築が必要（緊急通報システム・高齢者世帯等の見守り活動の充実化）
・地域によって携帯電話の電波が弱い場所があるので解消してほしい
・働く場所や若者が住む住居が少ない
・高齢者が安心して共同生活できる施設整備をしてほしい

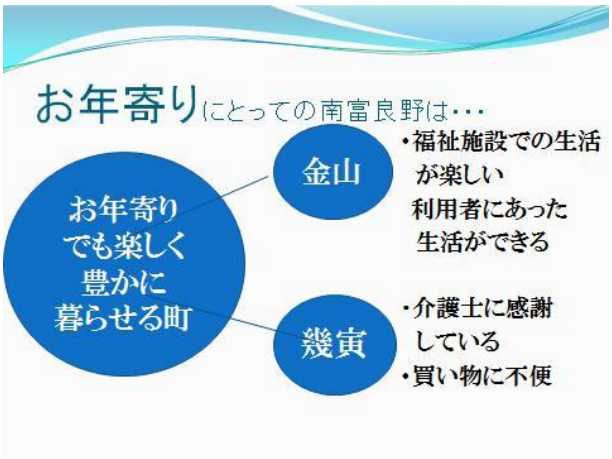
「教育・子育て支援」
・子ども達が遊べる場所や環境の拡充をしてほしい
・保育所など子育て支援施設の整備･改善が必要（幼稚園の建設等）
・外サークル活動等の体制整備（少年団活動の充実化）
・各地区にある公園遊具を全て町で管理してほしい（塗装・メンテナンス等）

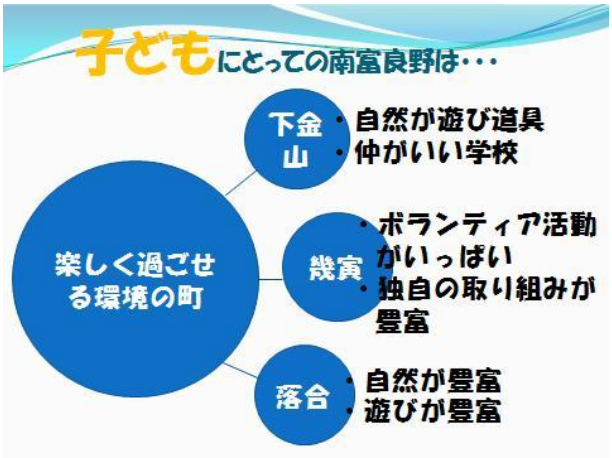
「観光について」
・本町へのリピーターが増える魅力ある観光事業の展開を実施してほしい
・観光コーディネーターの育成
・観光パンフレットの充実化（マップとアウトドアガイドの一体化）

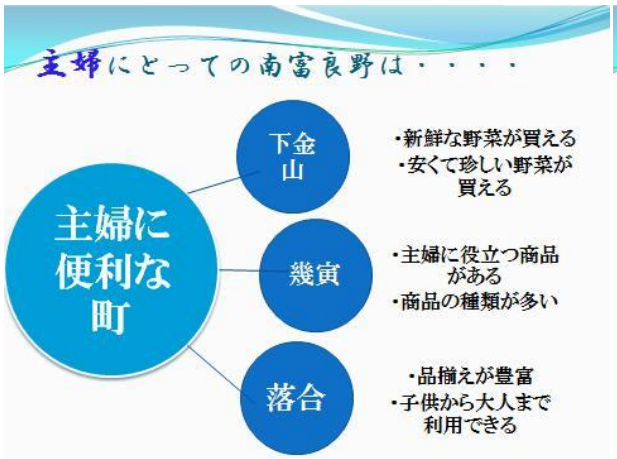
「在宅福祉サービスについて」
〇生きがいデイサービス
・利用者が楽しめるよう内容を見直してほしい（ふまねっとの定期実施）
・月１回程度買い物を実施してほしい（寄り道クラブの復活）
〇移送サービス
・利用できる対象者の緩和をしてほしい（一定年齢以上による無条件対象の検討）
・利用料の町内一律化の検討をしてほしい
・利用用途の拡大を検討してほしい（通院帰りの買い物・サロン開催時の送迎等）

「その他」
・住民の各種相談体制の整備が必要
・利便性の向上（24 時間買い物ができるコンビニの設置等）
・循環バスを停留所以外で乗車利用できるようにしてほしい
・サロンを開催できる場所が必要
・若者の定住促進
・魅力ある町づくりの推進

【総合学習ナンプタイムの概要】







（２）地域福祉の課題整理

地域福祉をめぐる南富良野町の現状および地区座談会などの結果から、地域住民が南富良野において暮らし続けていく上での課題について概要を整理すると以下のようになります。これら課題は、相互に密接に関係していることから、各種施策を体系的に構築するとともに、町、社会福祉協議会、福祉団体、地域住民などがそれぞれの適切な役割分担のもと、効率的、横断的に対応していくことが必要です。

①　生活上の不安に係る課題

ひとり暮らしの高齢者世帯の増加により、買い物、通院、冬の除雪といった日常生活においての不安を抱える人が増えてきております。このことから今後において、高齢者の見守り活動や緊急通報システムの整備、その他、医療・福祉サービスの提供体制の見直しを図る必要があります。

②　教育・子育て支援に係る課題

子育てにかかわる各種情報を適切に提供する体制づくりや保育所・児童公園などの施設改善や子ども達が外で遊べる場所の提供及びサービスの質の向上を図る必要があります。また、同時に医療費の助成など経済的な支援も求められています。

③　観光についての課題

本町の地域資源や特色を生かした観光事業の展開により魅力ある町づくりが求められています。また、観光産業の促進を通じて新たな雇用の場の確保や若者の定住促進が望まれています。

④　在宅福祉サービスに係る課題

地域によって、病院や商店が少なく、高齢化が進む本町において移動・移送は重要な生活基盤となっており、移送サービスの利用・用途拡大が強く求められています。また、高齢者や障がい者の方が安心して日常生活が送れるよう既存の福祉サービスの提供体制の見直しや質の向上を図る必要があります。

⑤　その他の課題

過疎化と高齢化に対応する行政サービスの質の向上と、若者から高齢者までが集まり交流できる場所の確保が求められています。